



2002年08月22日

フォルクスワーゲン ニュービートル カップ ジャパン2002第四戦(筑波)リザルト



フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(略称VGJ、代表取締役社長:梅野 勉)がサポートする、輸入車初のJAF(日本自動車連盟)公認ナンバー付きワンメイク レース、"フォルクスワーゲン ニュービートル カップ ジャパン2002"(以下:NBCJ)の第四戦が、8月18日(日)筑波サーキット(所在地:茨城県結城郡)にて開催され、ゼッケン55:Team DUO Beetleの坂本祐也選手(エキスパートクラス、以下:Ex)が見事四連続優勝を飾り、これによって同選手の2002年度シリーズ チャンピオンが確定しました。また、クラブマンクラス(以下:CI)では、ゼッケン7:110 RACING Beetleを操る伊藤 与志雄選手が、第三戦(鈴鹿)に続く堂々の三勝目を挙げました。

今年二回目の開催となる筑波サーキットは、関東地方に接近していた台風13号の影響を受ける中での開催となりました。予選ラップの結果、ゼッケン55:坂本選手以外には、ゼッケン45:DUO群馬中央ビートルの山口倭生選手、ゼッケン4:フォルクスワーゲン金沢の又多ムツヒロウ選手など、今までの顔ぶれとは違う選手が上位にランクイン。ラップ差1秒以内に実に9選手が出揃うという、まさに「筑波エキスパート」の戦いを呈しました。また、今回のレースには、現在、フォーミュラーニッポンや先のル・マンなどでの活躍が目覚ましい、荒聖治選手が特別参戦。同氏がレーサーを目指すきっかけとなったVWポカールレースで慣れ親しんだサーキットを、最新のフォルクスワーゲンに乗り多いに楽しんでいました。

午後1時51分。依然として天候不順が続く中、多くのチームはこの大切なレースをどのように組み立てるか、最後までその判断に苦しんでいました。幸いにも天気は持ち続け、参加総数20台のカップカーは時間通りに一斉にスタート。12ラップのレースが始まりました。今回のレースでシリーズチャンピオンの座を確保したい坂本選手。また、それを阻止する多数のドライバーの駆け引きが続く、タイトできついコースが特徴の筑波サーキットでは、一瞬の隙を狙った逆転に賭けるしか有効な手段がないため、各選手ともテールトゥー ノーズ、サイドバイ サイドで果敢に相手にプレッシャーを与えながらの、エキサイティングなレースとなりました。

午後2時6分、チェッカーフラッグを最初に受けたのは、やはり、今回も安定したレースに徹したゼッケン55:坂本選手であり、今回の優勝の結果、同選手は念願のシリーズチャンピオンを握中に収めました。表彰式では、過去二年連続でNBCJチャンピオンに輝いた山本将也選手が駆け付け、表彰式にてプレゼンターとして新チャンピオンにトロフィーなどを手渡しました。また一方、CIも前回に引き続きゼッケン7:伊藤 与志雄選手が見事一位に入賞。勝利者コメントで、「最終戦はエキスパートクラスで参戦する。」と宣言すると、会場からは大きな声援と拍手が贈られていました。

NBCJの最終戦は、9月14日(土:予選+決勝)、今年で三回目の開催となるインポーター最大級のカスタマーイベント「フォルクスワーゲン フェスト イン フジ」(会場:富士スピードウェイ/静岡県駿東郡)にて開催されます。

第四戦:エキスパートクラス決勝公式結果

第四戦:クラブマンクラス決勝公式結果

決勝	クラス/予選	ゼッケン	ドライバー/車名	所要時間	決勝	クラス/予選	ゼッケン	ドライバー/車名	所要時間
1	Ex-1	55	坂本祐也:Team DUO Beetle	14'45.215	1	CI-1	7	伊藤与志雄:110RACING-Beetle	14'56.152
2	Ex-2	45	山口倭生:DUO群馬中央ビートル	14'49.882	2	CI-2	67	春名雄一郎:O'z caffe Beetle	14'58.429
3	Ex-3	4	又多ムツヒロウ:VW金沢	14'52.176	3	CI-3	66	鈴木 大:スズキークラズBeetle	15'03.351
4	Ex-6	99	壺林貴也:CRT New Beetle	14'54.521	4	CI-5	38	高橋克彦:DUO定禅寺ニュービートル	15'12.959